

確かなこと、確かなもの

岐阜市立陽南中学校 3年

竹田 小春

「大きい」の反対は「小さい」、「高い」の反対は「低い」。では、「戦争」の反対は……。1年前の私なら「平和」とすぐに答えていたことでしょう。これまでの社会の授業、ウクライナとロシアの報道に触れるたびに、戦争がないことが平和なのだと、当たり前のように思っていたからです。

そんな私の考え方を変える出来事が今年の夏休みにありました。中学2年生のときの北方領土視察です。

北方領土問題とは、第二次世界大戦後、ソ連軍が日本の領土である北方四島に侵攻し、現在もロシアが不法占拠していることです。実際に元島民の方に話を伺うと、目と鼻の先に見える場所にすら行くことのできない現実。それが 80 年も前から続いているとのことでした。

「僕はもうすぐ死んでしまう。早く領土を返還してほしい。」

目の前で切実に話す島民の方の言葉に胸が痛みました。私にとって居心地の良い、大切な場所が奪われてしまったらと、考えずにはいられませんでした。

私にとって居心地のよい場所。それは家です。リビングでゆっくりテレビをみたり、父や母が作ってくれるご飯をみんなで食べたり、自分の部屋のベッドで漫画を読んだり。一番安心でき、リラックスできる、そして、私のことを大切に思ってくれる家族がいる、この場所です。

もしそれが奪われてしまったら。安心できる場所がなくなり、自分が自分でいられなくなると思います。学校で勉強したり、友達と遊んだりして楽しく過ごすことができているのは、心と体の疲れを癒して、明日も頑張ろうと活力に繋げてくれる居場所があるからです。

領土が奪われるとは、こういった居場所を奪われてしまうことなのだと、初めて気が付きました。

また、安心感だけでなく、多くの尊い命を奪う戦争は、平和を破壊する要因となります。しかし、同時に平和構築のためのきっかけにもなると感じるようになりました。日本がこのような経験をしたことで、人々の間に解決へ向けた取組が、今でも行われ続けています。一方的に現状を変更することが解決なのではない。ロシアとの対話や交渉などを繰り返し、また元島民の思いも理解しながら、みんなが共存していこうとすることが、平和な社会を築いていくことに繋がるのだと、私の考え方が変わりました。

中学校に入ったころの私にもこんな経験がありました。吹奏楽部に入り、トロンボーンを吹くように言われました。でも、私が本当にやりたかったのはフルートでした。やりたい楽器ではなかったので、練習がどんどん嫌いになっていきました。そんな頃、先輩が、「無理に好きにならなくていいんじゃない。大切なのは、みんなで合奏するのを楽しむこと。私も最初そうだったよ。」と言ってくれてとても心が軽くなりました。それからとにかくたくさん練習して、曲をつくり上げていきました。気づいたらとても楽しくトロンボーンを吹けるようになっていました。

望んだ楽器ではないことと、みんなで合奏を楽しむこと。戦争と平和。どちらも両極にあるようで、本当は隣り合わせにあるものなのではないでしょうか。これが今の私の考え方です。こんなふうに自分の考えが変わったのは、出会った人々の生の声や、自分の目で見た事実があったからです。

今の世の中は情報があふれています。簡単に情報が手に入ります。だからこそ、物事の上辺だけを見るのではなく、自分ごととして捉えたり、本当にそうなのか確かめたりすることが求められます。こうやって私が話す言葉も同じだと思います。誰かの考えや行動を変える、考えをもつきっかけになるかもしれないから。